

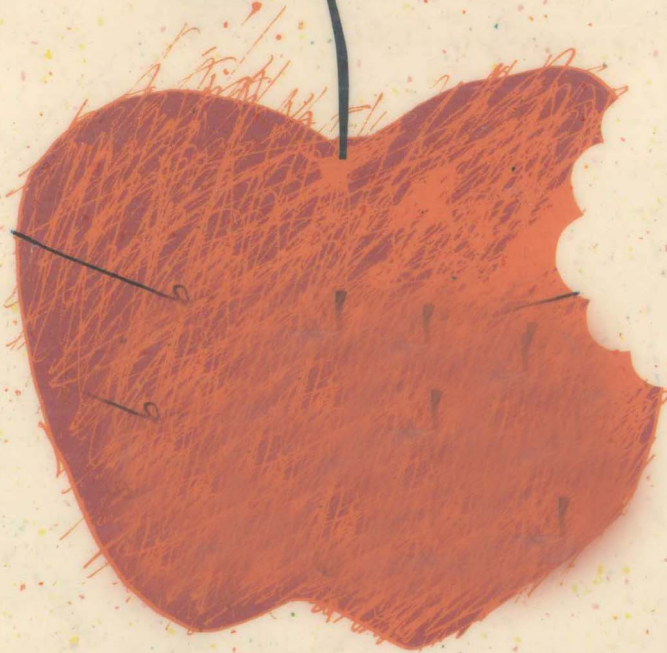
栄東を

追われる

寺に

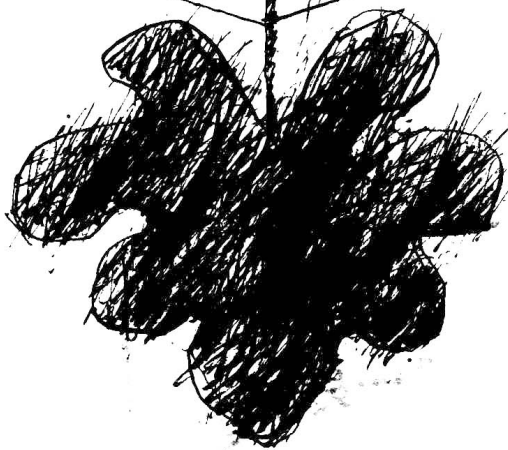
鴻上尚史

必要な物



鴻上尚史

楽園を追われる時に
必要な物



お願い――

この本をお読みになって、どんな感想をもたれたでしょうか。「読後の感想」を左記あてにお送りいただけましたら、ありがたく存じます。

なお、このほかに、「光文社の本」では、どんな本を読まれたでしょうか。どの本にも、一字でも誤植がないようにつとめておりますが、もしお気づきの点がありましたら、お教えください。ご職業、ご年齢などもお書きそえくだされば、幸せに存じます。

東京都文京区音羽二―二―一三

(〒112-11)

光文社 文芸編集部

楽園を追われる時に必要な物

一九九二年九月一日 初版 一刷発行

著者 鴻上尚史

発行者 大坪昌夫

発行所 株式会社光文社

東京都文京区音羽二―二―一三
電話 東京〇三―三九四二―二二四一(代)

振替 東京六一―一五三四七

印刷所 公和図書

製本所 ナショナル製本

定価一、三〇〇円
(本体一、二六二円)

落丁本・乱丁本は本社でお取替えいたします。 © Shoji Kōkami 1992

ISBN4-334-97075-3 Printed in Japan

日本音楽著作権協会許諾番号 第9261070-201号

ごあいさつ

スキューバ・ダイビングのライセンスを取りました。石垣島に三週間、合宿免許を取りにいった時、時間を見つけて、念願だったライセンスを取ったのです。

始まりは、サイパンでの体験ダイビングというやつでした。ライセンスを持ってない素人が、インストラクターつきで数メートルの海底に潜れるというものです。

僕は一度でトリコになりました。何故、こんなにひかれるんだろうと分からないまま、ダイビングのトリコになったのです。

石垣島で三日間、重いタンクを背負い、レギュレーターをくわえ、足ヒレをつけ、よた

よたとレッスンを続けました。

とても魅力的で楽しい時間でした。

ライセンスを取り、20メートルの海中を泳いでいる時でした。海底はさらに10メートル下、ですが奇跡とも思える透明度のおかげで、海底はすぐそこに見えました。砂浜やサンゴや岩やさまざまな表情の海底は、森のように林のように草原のように見えました。

空を飛んでいるようでした。

その時、この感覚を、僕は知っていると確信が僕をとらえました。

この感覚は、とても懐かしい感覚だ、僕はこの感覚をずっと体験してきたという不思議な思いにとらわれたのです。

ああ、そうだと僕は思いました。この感覚は、僕が子供のころ、毎晩、夢見ていたあの夢そのものなんだと、次の瞬間、納得しました。

子供のころ、僕は空を飛ぶ夢ばかり見ていました。夢判断の人だときっと、それは、性欲と関係があるんだと言われるかもしれませんが。

でも、フロイトではなく、ユングに近い解釈をすれば、少し、事情が変わって来ます。

その夢は、とてもリアルな夢でした。いつも、僕は、夢の中で力一杯助走を始めるのです。うんうんと唸りながら、力一杯助走をすると、やがて、体がふわりと浮いて、空を飛ぶことに成功するのです。失敗する時もちろんあります。

この夢がリアルなのは、ベッドに乗ったまま空を飛ぶとか、いつのまにか体が浮いてるとかいうのではなく、飛ぶためにかなりの努力と、そして失敗があるということでした。飛ぶことに成功しても、夢の中では、永遠ではありませんでした。僕は飛びながら、ビルディングや塔を捜しました。飛んでいるうちに、だんだんと高度が下がるのが分かるからです。途中のビルディングで休みながら、もう一度、加速をつけて助走を繰り返すのです。

どんなに飛んでも、10メートル以上は高くなかったと思います。地面から2メートルぐらいをずっと飛んでいたこともありました。

海中20メートルで、僕はその感覚に、十数年ぶりに再会しました。そして、スキューバダイビングにひかれ続けた理由がやっと分かった気がしたのです。

中学から高校になる間に、僕はその夢を見なくなりました。子供心に僕は、どうしても見なくなったのかを知っていました。

それは誤解かもしれませんが、僕は納得していました。

空を飛ぶ夢は、なんとか世界を理解したいという夢だと思っていました。子供の低い視点ではなく、大人の視点でもなく、一気に高く高く、世界全体を見渡せる視点が欲しいという祈りが、空を飛ぶ夢になるのだと思っていたのです。

俯瞰ふかんというのは、神の視点です。人が高い塔を教会を求めるのも、神の視点を手に入れ

たいからに他^{ほか}ならないと僕は思っています。

高い塔に登り、下を見下ろす。人は小さく、家は小粒に、人生はすべて理解できる大きさへと移行する。

そして、僕が中学から高校になる間に、空を飛ぶ夢を見なくなったのは、もはや世の中に、そんな視点は存在しないのだということを知ったからだと思っています。

もはや、楽園は存在しない。人生を無条件に理解して、愛して、いつくしむような視点など、存在しない。人生は条件つきで理解できるもので、愛すべきもので、いつくしむものである。だから、空を飛ぶことを希求しても、せんなきことである。

タンクを背負い、レギュレーターをくわえ、マスクに入る海水を気にしながら、わずかの間なら、楽園にいることはできる。ただし、残圧計をいつも気にして、残りの空気量をチェックしておかなければ、楽園に気を取られ、ずっとここにいたいと思った瞬間に、僕は、人生そのものから追われてしまう。

それでも、僕は幸福でした。ああ、空を飛んでいるんだと感じた僕は、この上なく幸福でした。

楽園に一番近くて遠い場所に漂いながら、僕は、楽園があると、あつて欲しいと思っていたあのころの自分のことを思い出していました。

ニセモノの楽園をでっち上げることもなく、ニセモノの楽園を信じ込もうとすることも

なく、楽園が欲しいと泣き続けることもなく、うんうんと唸りながら生きているあなたに。
この本が、例えばあなたが楽園から追われる時に必要な物になれば、それだけで、僕は幸福なのです。

一九九二年七月二十六日 石垣島で灼けた皮をむきつつ

鴻上尚史

樂園を追われる時に必要な物

目次

はじめに

1

二十世紀の終わりに

13

タガログ語

15

宴会と資本主義

17

映画の民度

19

につかつ撮影所

21

ワールド・オブ・ドリームス

24

女性の時代

26

コンビニエンス・ストア

28

視聴率

30

皇族の方

32

レコード千枚聴き

自己啓発セミナー

宇宙存在

41

ザ・ブルーハーツ『青空』

43

清水靖晃『DAY O』

46

真島昌利『アンダルシアに憧れて』

49

ザ・タイマーズ『タイマーズ』

53

筋肉少女帯『サーカス団パノラマ島へ帰る』

56

たま『さよなら人類／らんちう』

59

KATSU CLUB『KATSU CLUB』

63

くじら『メロン』

66

ヒートウェイヴ『柱』

70

THE家元『三味線ON MY MIND』

73

JUN SKY WALKER(S)『START』

78

Nav Katze(ナーブ・カツツェ)『歓喜』

81

河内家菊水丸『HAPPY』(『カーキン音頭』入り)

85

桑田佳祐のSUPER CHIMPANZEE『クリといつまでも』

世良公則『FUN TO FUN』

「究極の選択」(89・2・25)	99
気功(89・3・25)	100
インタラクティブ・エンタテインメント(89・4・22)	102
虫プロ興亡記(89・5・27)	104
「熱狂」の薄い時代(89・6・24)	105
非・体系的知性(89・7・22)	107
『旅立ちの時』(89・8・26)	109
肯定の時代へ(89・9・30)	110
『がきデカ』(89・10・28)	112
抑圧発散の笑い(89・11・25)	114
無責任な主語(90・1・6)	115
非・体系的知性Ⅱ(90・2・3)	117
臨界点(90・3・3)	119

世紀末メディア

再び選別の時代へ(90・3・31)	120
危険な構図(90・6・2)	122
男と女(90・6・30)	124
最後の共通の「過去」(90・7・28)	125
深夜番組(90・8・25)	127
滅びの理由(90・9・29)	129
パーティ・ラインの未来(90・10・27)	130
衛星放送(90・12・1)	132
流行の寿命(91・1・5)	133
カバーソング	137
四コママンガ	141
情報誌	145
ポスト・タバコ	149
清潔グッズ	153
犬グッズ	157

あつちの世界の映画

単館公開低予算日本映画

電話と仲良し

都市の秘境

深夜テレビ

テーマ・パーク

リバイバル

楽しいサイエンスBOOK

ノド飴革命

ファースト・フードの戦い

英語グッズ

目薬三昧

おコメの行方

自販機天国

夢のポケベル

ハッピー・アイスクリーム

オオシマユミコ

世紀末的風景

237

テレクラ

239

バナナ

243

ケダモノと恋愛

246

正月

253

ブロードウェイ

255

お酒

258

大学時代

259

大隈講堂裏

262

演劇論入門——賢く生きるための方法論序説

268

志の高さ

281

あとがきにかえて

283

装幀／杉浦範茂

二十世紀の終わりに

